

2025 年

# 第 40 回 “自然から学ぶ” 写真展



今年度のテーマ部門は「季節とともに生きる生物の姿」です。

①～⑬はテーマ部門、⑭～は自由部門です。 ご覧ください。

主 催 富山県高等学校教育研究会生物部会  
写真展担当 : hashimoto-tatsuki@ed.pref.toyama.jp

## 1. 実りの秋をかじりとる



10月のある日、オニグルミの果実をかじり、種子を取り出して食べている姿に出くわした。常連のニホンリスである。たまたま天気が悪く、天敵もいないのか、1か所に留まってじっくりと食べている様子を観察することができた。

堺 康浩（八尾高校）

## 2. お花畑



立山室堂の8月は、晩夏から初秋にあたります。8月1日に訪れたとき、室堂ターミナル付近のチングルマはほとんど咲き終わって綿毛の状態でしたが、浄土山へ登っていくとちょうど満開のチングルマと遭遇しました。ありがちな構図ですが写真に収めました。

(2025.8月 立山 室堂～浄土山)

寺井 康之 (志貴野高校)

### 3. ハナアブとイワイチョウ



高山植物のイワイチョウは名前の通り、秋になるとイチョウのように黄葉します（丸い葉が黄色くなります）。しかしイチョウとは違って、白い可憐な花を短い夏に咲かせます。ハナアブもイワイチョウも短い夏のあいだに子孫を残すために必死です。

（2025.8月 立山 室堂付近）

寺井 康之（志貴野高校）

#### 4. ハナイグチ



傘がナメコのように、内側がスポンジ状になっています。

カラマツ林におなじみのキノコです。お吸い物でいただきました。

安藤 慶子（福岡高校）

## 5. 抜け殻ではなく



「ありみね高校生学びの森」に参加してエゾハルゼミの存在を知りました。ちょうど6月の研修が時期なので抜け殻は毎年見つけられますが、セミ本体は初めてです。動物は植物と違って逃げ隠れするため、幸運が重なりようやく撮影できました。

(R7.6月 有峰にて)

福田有希子 (雄山高校)

## 6. 赤い実がなくても



亜高山帯～高山帯の林床植物のひとつであるオオバタケシマランは赤い実をつける秋には比較的簡単に見つけることができます。葉だけで同定することはまだ難しいので、まずは吊り下がった緑白色の花に気づけるようになりたいものです。

(R7.9月 立山天狗平にて)

福田有希子 (雄山高校)

## 7. 警戒中



数年前に2羽のキジ（雄）が喧嘩をしていた場所で、今回はパートナーを連れての個体を見かけました。雄は採餌中の雌から離れないよう後を追いつつ見張りを続けており、夏には隣の水田の畦で3羽の幼鳥を連れて歩く姿も見られました。

（R7.4月 立山町にて）

福田有希子（雄山高校）

## 8. ダフネの化身



雄山高校に赴任し、ゲッケイジュの植栽に感激。「ゲッケイジュは料理で使うローリエのことだよ。さすが生活文化科のある雄山高校だね。」と生徒に紹介しています。雌株のようですが、雄株がないので残念ながら秋になっても結実しません。

(R7.4月 雄山高校にて)

福田有希子 (雄山高校)

## 9. 二度目



チングルマは花から綿毛、そして紅葉まで季節ごとに姿を変えて「三度楽しめる植物」として人気があります。これから綿毛（果実）を広げようとしており、まさに二度目が始まるところです。

(R7.8月 浄土山にて)

福田有希子（雄山高校）

## 10. ムギワラトンボ



「シオカラトンボってこんな色？」と家族が不思議がるので改めて調べると、複眼と体色が水色なのは成熟したオスのみでした。メスは茶色の体色からムギワラトンボの別名でも親しまれ、成熟すると複眼は緑色に変わるそうです。

(R7.7月 滑川市にて)

福田有希子 (雄山高校)

## 1 1. タカネヒカゲノカズラ



地表を這うように広がる匍匐茎や直立茎の小葉だけでは気付かず、シュッと突き出た孢子囊穂が目に留まり足を止めました。春先に見慣れたツクシの頭と同じ形をしているところがシダ植物だと感じられるポイントです。

(R7.9月 立山室堂にて)

福田有希子 (雄山高校)

## 12. カピバラの冬



カピバラは南米アマゾン川流域の温暖な湿地帯に生息する動物です。寒い日本の冬には、ニホンザルのようにお風呂に入り、富山市ファミリーパークでも冬を越すため入浴する姿が見られました。水にぬれると、乾きやすいまばらな毛の特徴がよく分かります。

伊藤 隼（高志支援高校）

### 1 3. 秋に咲く桜



桜の名所としても知られる前任校で秋に撮影した四季桜です。隣には赤く染まった紅葉もみられ、時間が折り重なり、季節の境界がほどけたような不思議な感覚にしてくれます。四季桜は、春と秋から冬にかけて年に二度花を咲かせる、珍しく美しい桜です。ほかにも、十月桜や子福桜などがあります。

橋本 樹（富山高校）

## 1 4. 幾何学模様



小学生の時の国語の教科書に「クモは誰からも教わっていないのに、本能で決まった形の巣を作る。巣を壊しても、次の日には同じ形の巣ができています。」といったような文章があったのを思い出しました。クモは種によって巣の形に特徴があります。この巣はアシナガグモの仲間のようなようです。本体はクモ隠れしているみたいです。

(2025.6月 砺波市 頼成の森)

寺井 康之 (志貴野高校)

## 15. パンダの指



ジャイアントパンダの前肢には「第6の指」と呼ばれている手のひらの突起があります。正確には指でなく手首の骨（種子骨）が大きくなったコブのようなものだそうです。この「第6の指」で上手にタケの葉や筒の部分をつかむことができます。

寺井 康之（志貴野高校）

## 16. ハートマークのカメムシ



「ヘクサンボ」と嫌われ者のカメムシですが、ハートマークを背負っているかわいいやつを晩秋の朝に見つけました。名前を調べると「エサキモンキツノカメムシ」でした。近縁種に「モンキツノカメムシ」という種もいて、こちらは逆三角形のマークが背中についているそうです。

(2025.12月 砺波市)

寺井 康之 (志貴野高校)

## 17. 引き分け？



9月27日に称名滝への遊歩道にて、オニヤンマがカメムシの臭い？にやられて、ふらふらと落ちてきたところを撮影しました。

廣田 彩香（新湊高校）

## 18. 稜線の青い警告

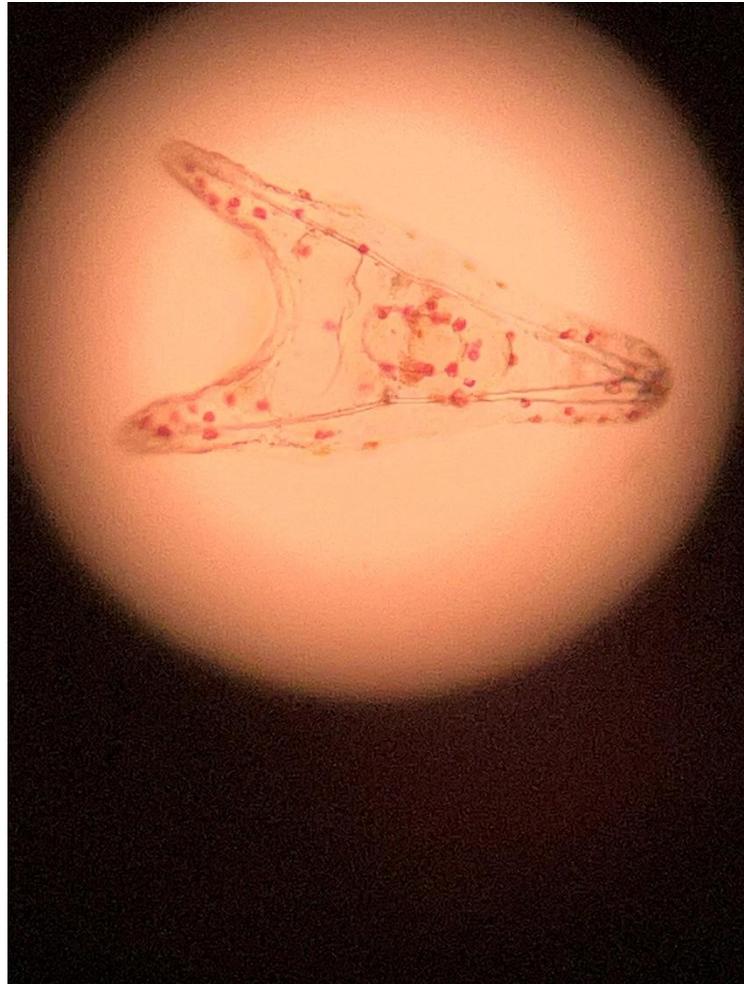


緑の斜面に点在する白い花群の中で、ひととき濃い青紫が風に揺れている。厳しい環境でも凜と立つ毒花（トリカブト）を切り取った一枚。

（野教研立山調査にて撮影）

中村 拓彦（富山中部高校）

## 19. ウニのプルデウス幼生



受精後5日目のバフンウニのプルデウス幼生です。骨片や赤い色素胞が見えます。胃や肛門などもわかります。餌を与えていませんが、海水のみでここまで生きながらえました。低温になるとそこに沈んでいますが、15℃になると繊毛で泳ぎます。

広澤 洋子 (雄峰高校)

## 20. 令和7年巳年の縁起物



学校の駐車場で立派なアオダイショウの抜け殻を見つけました。本体には近づけなくても、抜け殻なら持ち上げたりひっくり返したりしながらじっくり観察することができます。「財布に入りたい」と切れ端を欲しがった生徒もいました。(R7.6月 雄山高校にて)

福田有希子 (雄山高校)

## 21. オタマジヤクシで冬を越すカエル



2012年に新種として記載された「サドガエル」。佐渡島の固有種で絶滅危惧IB類に選定されています。国産のカエルの中では唯一オタマジヤクシで越冬する特徴を持っており、冬に新潟市に襲い来る寒波をブロックし、雪を引き受ける佐渡島において、この特徴が生存に有利に働いていると考えられています。佐渡島ではトキとの共存を目指し様々な取り組みが行われています。トキのえさ場である田んぼを整備することがサドガエルの住み家を整備することにもつながっており、時にはトキのえさにもなる生態系の重要な役割を持ったカエルです。(撮影：新潟市水族館 マリンピア日本海)

雑賀 睦実 (高岡高校)

## 22. 瓜割の水



8月上旬，福井県の雄島を散策中。島の流紋岩の隙間から湧き出る夏でも冷たい瓜割の水に思わぬ来客。刺激をしないように見ていると，おなかをポンプのように動かして，水を飲むスズメバチ。給水した水は幼虫のために運んだり，巣を冷やすのに使ったりするそうです。

雑賀 睦実（高岡高校）

## 23. ボディパーカッション



6月の終わりに階段で見かけたシロスジカミキリ。体長は5センチを超えることもある国内最大サイズのカミキリムシです。ギイギイという音を出して威嚇するのですが、これは鳴き声ではなく、体の前胸背板をこすり合わせる摩擦音だそうです。主にクヌギやクリなどの木を食べるそうで、特にクリの被害は問題になっているそうです。ただ彼らがクヌギを噛むことで樹液が出て、カブトムシが寄ってくるきっかけになるなんてこともあるそうで、ありがたく思っていますね。

雑賀 睦実（高岡高校）

## 24. DIYの達人



日本では夏にみられるアカショウビン。朽ちた柔らかい樹木に穴をあけて巣作りをしますが、キツツキが使っていた巣を、穴を広げたり中を整えたり、手入れして使うこともあるそうです。こちらの施設では骨折のために保護されていた個体が、野生復帰が難しく受け入れられたそうです。大きなくちばしがチャーミングですね。

(撮影：アクアマリンいなわしろカワセミ水族館)

雑賀 睦実 (高岡高校)

## 25. 意外とパワー系



スズメの仲間にしては珍しく水中に潜って餌を捕まえるカワガラス。溪流沿いに巣を作るそうです。足の力が強く、速い流れの中でも水底をしっかりとつかんで歩いて餌を探すそうです。全身黒いですが、まぶたに白い毛が生えているそうです。おしゃれですね。

(撮影：アクアマリンいなわしろカワセミ水族館)

雑賀 睦実 (高岡高校)